

治区の経済の発展のために 青春と知恵を捧げている。

1984年 武漢地質学院を卒業した劉衛東と彼のガールフレンド何王基は新疆ウィーグル族自治区地質鉱産局に到着するや 進んで水理地質隊への参加を申し出た。暫くして 何王基は高地で寒冷なアルタイ地域に派遣され 劉衛東も毅然として出向いて行った。それからまた彼等は肩を並べて瑪納斯河の流域で野外測量に従事した。この間 彼等は互いに励まし合い 落後に甘んぜず 優秀な成績を挙げ 去年は“為辺陞優秀儿女挂獎賞”活動で彼等はそれぞれ銀賞と銅賞を受けた。1983年に武漢地質学院石炭地質学科を卒業した範子文は 自ら進んで新疆ウィーグル族自治区での勤務を願いでた。

2年の間 彼は野外で自然に翻弄されながら炭田調査に苦闘を続けた。一炭田区域の炭層の堆積現象の特徴を明らかにするために 彼はしばしば単独で山に登り 詳細な地質と地質断面を調査し 柱状地質断面図を組立て 調査地の挟炭層の堆積環境を研究するために大量の資試料を集めた。炭田区域での探査 石炭試料とガスの採取は苦難の事業であった。いつもいつも昼夜を分かない試錐現場での観測では 彼は終夜班勤務を希望し 適えられて徹宵の仕事を続けた。去年 新疆ウィーグル族自治区地質鉱産局は彼に“新長征突撃手”の称号を贈った。

劉二虎 (中国地質報 1986. 7. 14)

おわり

(新著紹介) A. KEZDI L. RETHAI : Handbook of Soil Mechanics 3 Elsevier, 1988. 361p., Dfl. 240

釜 井 俊 孝 (環境地質部)

Toshitaka KAMAI

本書は全4巻で構成される土質力学ハンドブックシリーズの第3巻で “German Handbuch der Bodenmechanik Band 2” の英訳増補改訂版である。著者らはハンガリーの研究者であり このシリーズにより東欧圏における土質力学の状況を伺い知ることができよう。

第1巻と第2巻はすでに刊行されており 第1巻は土の起源 分類 応力・ひずみ 透水 変形 土圧などの基礎的性質 第2巻は調査や試験法など物性の決定に関する内容となっている。一方 本書では土工 基礎 地盤改良などが中心に扱われ 第4巻に含まれる予定の地すべり ダムなどの分野と合わせて 土質力学の工学的側面をカバーしている。本書は6章で構成される。

“第1章土工に関する力学”では盛土 切り土に関する安定問題とフィルダムの透水を中心として記述されている。前者では限界平衡法による安定解析が様々なケース毎に述べられているため 技術者は問題に適した解法を容易に選ぶことができる。また 環境の変化や時間の経過による影響についても多くのページが割かれており 本書の特徴の一つとなっている。“第2章 支持力と浅い基礎”と“第3章 支持力とくい基礎”では支持

力と基礎に関する理論が取り扱われており かなり詳しい解析が述べられている。しかし一方で ケーソン基礎についての記述が見られない点については 奇異な感じを否めない。“第4章 道路”では 道路施工に関する話題がルート選定から路床・舗装の設計に至るまでまとめて扱われている。ここでは凍結による被害の防止についても詳しく述べられており 気候風土の違いを感じさせる内容である。“第5章 土の物性の改良”では 締固め 深層混合処理 補強土などの地盤改良法が述べられている。“第6章 動的性質”では動土質力学の理論が述べられている。東欧と我が国とは地震の発生頻度が異なるので 具体例がほとんど述べられていないのは止むをえないことかも知れない。

全体として 限界平衡法や支持力理論など いわゆる“古典的”な分野についてはほぼ完璧に網羅した内容であり 良質なハンドブックと言える。しかし欲を言えば最近発展がめざましい数値解析の応用分野についてももう少し触れるべきだった様に思う。これも国情の違いによるものだろうか。